

犬神家の一族 (The Inugamis)

観賞日 2024年10月7日 上映時間 146分

【概要】

制作 1976年

監督 市川崑

脚本 長田紀夫、日高真也、市川崑

原作 横溝正史『犬神家の一族』

音楽 大野雄二

撮影 長谷川清

出演 石坂浩二 (金田一耕助)、島田陽子 (野々宮珠世)、あおい輝彦 (犬神佐清・青沼静馬)
高峰三枝子 (犬神松子)、草笛光子 (犬神梅子)、三条美紀 (犬神竹子)、加藤武 (橘警察署長)
小沢栄太郎 (古館弁護士)、三國廉太郎 (犬神佐兵衛)、寺田稔 (猿蔵)



【あらすじ】

昭和22年2月、信州財界の巨頭で日本の製薬王といわれた犬神佐兵衛が息を引き取った。東京の私立探偵金田一耕助が佐兵衛の顧問法律事務所から呼ばれてやってくる。佐兵衛には腹違いの松子、竹子、梅子という3人の娘がおり、3人にはそれぞれ佐清、佐武、佐智という息子がいた。佐兵衛の遺言は犬神家の全財産を、生前の大恩人である野々宮大武の孫娘珠代が相続し、珠代は自分の3人の孫息子のうちのいずれかと結婚するという条件が付いていた。

ここから、莫大な遺産を巡る血なまぐさい骨肉の争いが始まる。候補者の佐武、佐智が連続して殺され、三姉妹はようやく過去の忌まわしい出来事を話し始める。年老いた佐兵衛から犬神家の三種の家宝「斧・琴・菊」を与えられた青沼菊乃を、姉妹が襲い家宝を奪還したというのだ。失意の菊乃は息子の静馬を残し三姉妹を呪い殺すと誓って亡くなった。最後の候補者佐清も殺されるという事件が起きたが、殺されたのは静馬で、佐清は一連の殺人事件の犯人は自分であると自白した。しかし、金田一は真犯人は別にいると推理した。果たして、金田一が犯人と考えた人物は・・・。

戦後間もない頃、信州の山間の村で起きたおどろおどろしい連続殺人事件。名探偵金田一耕助の推理が冴える横溝正史の世界。

【解説】

■ポイント

●角川映画

角川書店社長の角川春樹が自社文庫本の販売拡張のため映画制作に自ら乗り出す。「読んでから見るか、見てから読むか」という、コピーは当時の流行語になった。費用を惜しまず、特に広告宣伝費をふんだんに使い次々に大作を制作し、それまでの映画界の常識を打ち破る斬新な発想で映画界に新風を吹き込んだ。1976年から1993年にかけて計42作品を発表、累計興行収入は450億円に及んだ。本作は角川映画の第1作に当たる記念碑的作品

●原作者横溝正史 (1902年~1981年)

神戸生まれ。江戸川乱歩の招きで上京 (1926年)。戦後、岡山での疎開時代に本格探偵小説を次々に発表 (代表作はこの時期に書かれたものが多い)。その後、松本清張らの社会派ミステリーの台頭により、一時影を潜めるが、角川文庫への作品収録と映画化により爆発的人気を得る。



■見どころ

●監督市川崑と主要キャスト

社運を賭けた第1作に、監督として当時映画界から遠ざかっていた市川崑を起用し、主要キャストには従来の金田一のイメージとは異なる石坂浩二、犯人役にはレジェンド女優を配した。

● 昭和レトロの雰囲気漂浮させる大野雄二作曲のテーマ曲